

【第三種郵便物認可】

ソフトウェア開発会社のペンギンシステム（茨城県つくば市）は業務用など広く使われるソフトではなく、先端的な研究現場で使う特殊なソフトを手がける。多くの研究機関が集まる筑波研究学園都市ならではの企業といえる。

同社は最近、高エネルギー加速器研究機構との共同研究で、量子ビームの検出器のデータを解析し、画像の形に可視化するソフトを開発した。「GEM」と呼ぶ新方式の検出器用だ。

検出器は素粒子の実験のほか、中性子やエックス線を照射して物質の結晶構造を分析したり、コンクリートや配管の内部を検査したりするのに使われる。GEMは従来の検

出器に比べ高性能で、検査したその場でリアルタイムの検出も可能だ。膨大なデータを処理する必要があり、そのた

だ、膨大なデータを処理する必要がある。そのための使いやすい処理ソフトの第1弾を開発した。

これまでの放射線医学総合研究所の重粒子線照射がん治療用のソフト、

いばらきを興す

ペンギンシステム

先端研究の支援ソフトウェア開発



高エネ研と量子ビーム検出器向けソフトも共同開発した



仁衡琢磨社長

《企業概要》

- ▽本社 茨城県つくば市千現2の1の6 つくば研究支援センター内
- ▽創立 1983年3月
- ▽売上高 約1億2000万円 (2009年2月期)
- ▽事業内容 先端研究の支援ソフトウェアの開発、研究者向けソフトの販売

顧客との共同研究に力

人工衛星による地球観測データの解析ソフトなど、様々な先端研究分野で実績を上げてきた。米ソフトウェアの「P-V-A-W-A-V-E」も販売、技術力のある顧客サ

ポートが必要なたためだ。一ズは「顧客に提案もす

同社もともと東京の共同研究に力を入れて企業だ。2006年に仁衡琢磨社長が就任、つくば市に会社の主な機能を移し「第二の創業」を宣言した。それまでは在庫管理など業務用ソフトも手がけ、いわば「何でも屋」だった。下請け、孫請けの仕事も多かった。しかし、そうした事業は売り上げが大きくなって利益が出にくい。研究支援ソフトに特化し、

研究向けのソフトウェアは売り上げが大きくなって利益が出にくい。研究支援ソフトに特化し、

「何でもいい」から「何か役に立つソフトを作りたい」という思い。脱却し、研究を熱く語る研究者に出会うと、この人のために作りたいと思う」と仁衡



茨城

水戸 029-2221-3283
つくば 029-852-0345